

# 会派代表が成果を市長に質疑!

9月定例会中に、4会派の代表が市長に対し、平成28年度の成果について質疑を行いました。ここでは、質疑の一部をお伝えします。



▲完成間近い大曲浜防潮堤



▲東矢本駅北側 あおい地区

平成28年度決算意見書に対する所見を伺う

平成28年度の決算成果と今後の方向性について

28年度各会計決算からの政策的成果は

28年度決算の総括を問う

清風・公明会派代表

五ノ井惣一郎 議員

**Q** 平成28年度は復興の具現化と新たな東松島市の構築の方針で震災後、復旧・復興関連事業、一般業務も遂行された。

**A** 平成32年から国の交付金が終了し財源不足の中で、少子高齢化、社会補償等が財源を圧迫するが、各会計の歳入・歳出決算、基金運用状況に対する所見は。

**A** 市長 決算総括内容を含め、政策課題等に対する予算確保するため、国・県の補助金、交付要件の緩和等を積極的に要望・確保する。人口減少対策・企業誘致を着実に推進し、税政の確保、高い行政サービスを効果的・効率的に提供し、経費の抑制を図り、公共施設の維持・更新費用への対応、市有財産の有効活用を推進を図る。

復興クラブ会派代表

上田 勉 議員

**Q** 前市長の重点施策の成果と期待を問う。

**A** ①重要施策の成果 防災備蓄品の配備、健康教室の継続的実施、営農体制の確保に成果があり評価する。  
②分野別施策の成果 待機児童の減少、18歳までの医療費助成は、評価する。

**A** 東矢本駅の停車については実現に至っていない。今後は、JR東日本に継続して要望する。  
③復興の加速 年度内完成が困難となり、次年度への繰り越し事業があった。反面、扶助費など経常的経費が増加した。今年度は、被災者の震災復興施策および心のケアを中心とする福祉関連事業を、社会福祉協議会等とも協議・連携し、復興の完結に向け努力する。

清新会派代表

滝 健一 議員

**Q** 決算を政策的成果に鑑み、どう評価し、総括しているか。

**A** 復旧復興事業のハード面の整備に一定の目処がたち、市民協働の拠点施設も、すべて再生整備された。  
**Q** 主要な事業の費用対効果の特徴をどう分析するか。

**A** 翌年度の実施計画や予算編成時に事業効果や改善内容等の聞き取りをし、総合的な検証も必要と考える。  
**Q** 財源の確保と経費の削減の道筋をどう捉えるか。  
**A** 市税の徴収一元管理で徴収率の向上を図り、企業誘致の推進や市有財産の活用により財源の確保に努め、国県の支援を要望する。

市民クラブ会派代表

佐藤 富夫 議員

**Q** 税収は回復傾向にあるが、依然として多額の滞納や不納欠損がある。この総括は。

**A** 滞納者の実情を見極め極力、収入未済額縮減に努める。  
**Q** 基地ある故の国の交付金はギリ貧乏の交付金は活発化は。

**A** ブルー及び21飛行隊の帰還、工作物の復元もあり、強く要望していく。  
**Q** 本市の貯金。財政調整基金が大幅に減少。将来の備えは。  
**A** 標準財政規模の55・10%が望ましい。  
**Q** 現在高10億円の確保に努力する。  
**A** 財政健全化の将来負担の見解は。今は問題ない。上らない様努める。